



松江クラシックス2017いよいよ開幕! —今年はモーツァルトプログラム—

5月14日のオープニングコンサートから28日のファイナルコンサートまで、モーツァルトをテーマにした松江クラシックス音楽祭2017が間近に迫りました。また、すでにお知らせしましたように、プレコンサートとして

フレンズの会主催のコンサートが5月7日と12日に開催され、すでに定員に達しました。

天才モーツァルトのみが表現できる根元的な悲しみと天国的な美しさ、その合一の瞬間を体験できるまたとな

い機会です。ご家族、知人・友人をお誘いあわせのうえ、ぜひ会場にお越しください。会員の皆様のご協力を重ねてお願いいたします。

◎チケット販売状況

- | | |
|-------|-------------------------|
| 5月14日 | オープニングコンサート (完売) |
| 20日 | シンフォニーコンサート (チケットあります!) |
| 26日 | 室内楽の夕べ (残僅少) |
| 28日 | ファイナルコンサート (チケットあります!) |

*20日、28日のコンサートのチケット販売にご協力ください。



紺野美紗子さん
5月28日ファイナルコンサート
「モーツァルトの手紙」
語り (モーツァルトの姉ナンネル役)



音楽監督の朝枝さんは、ある音楽専門誌上で次のように語っています。

—僕も時々相談を受けるんですよ。将来何になろうかと悩む。何をやるか、というのは問題ではないですね。ミスが三つあった。一つあった。全然なかった。そういうものは、いずれ死にゆく人間にとってどうでもいいことだと思いませんか? そんなことは全部ドングリの背比べですよ。勲章貰ったか貰わなかったか、それは死にゆく人間にとってはどうでもいいことですよ。

でも、その人間が、ある境地に達して、自分自身であるところのものに満足しているかしていないか、ということは、これは根元的な事ですよ。死にゆく人間にとって、最もここが重要なことですよ。

モーツァルトの手紙を読んでいると、死は最上の友である。毎晩ベッドに就くたびに、僕には明日はもうないんじゃないか、と思うと。でも、僕はちっとも悲しくない。ということは、モーツァルトの作品というのは全部レクイエムだったわけですよ。モーツァルトにとって生きるということは、そういう作品を書くということなんです。作品を作ることによって、新たな生命を得るわけです。次の一日を手に入れたわけです。そうやって彼は生きた。

モーツァルトの悲劇性というのは非常に根元的なもので、生まれる前から存在していたようなものですね。人が一人で生まれて、一人で生きて、そして一人で死んで行かなくてはいけないような、そういうものに触れるものですよ、モーツァルトの悲しみというのは。そういうものをチラッと僕らに見せてくれるのがモーツァルト。

報告 フレンズ主催 朝枝信彦ヴァイオリンリサイタル (2016年5月31日/白濁ハウス)



リサイタルと同じ曲目という豪華なものとなりました。

松江クラシックス2016終了後の5月31日、朝枝信彦ヴァイオリンリサイタルを開催しました。ピアノは、ファイナルコンサートを指揮したヴォルフラム・コロセウス教授(マインツ音楽大学前学長)、プログラムは数日後に東京のJTホールでの

またこの晩は、3人の有志の寄付により購入したグランドピアノ「1917年製ニューヨークスタインウェイ」の弾き初め公開演奏ともなり、ヴァイオリンとピアノの尋常ならざる艶やかで深い音色がホールを満たしました。新入会の方も多く、親睦会も大いに盛り上がりました。

(演奏曲目)

- 1 ブラームス ヴァイオリンソナタ第3番二短調 作品108
- 2 バッハ ヴァイオリンソナタ第3番ホ長調 BWV1016
- 3 シューマン ヴァイオリンソナタ第2番二短調 作品121